

書くこと②

第1学年

「根拠・理由」を明らかにして、説得力のある文章を書く

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

根拠や理由を明らかにして、筋道の通った文章を書くことができない。

考えと理由の入り交じった文章を書くことはできるが、接続語を用いて筋道立てて書いたり、段落構成を意識して文章を書いたりすることができない。

【生徒作文】 * 作者が伝えたかったことを考えよう

作者は作品の中で、ヒロシマ、ナガサキ、ヒロユキを全てカタカナで書いて、そこを強調していると思ったので、戦争によって若くして亡くなった人々のことを一生忘れてはならないことと、戦争は一生してはならないということを伝えたかったのだと思います。

「大人になれなかった弟たちに……」（光村図書1年）

実践の概要

単元名

いにしえの心にふれる

『蓬萊の玉の枝 — 「竹取物語」から』 光村図書

目標 「竹取物語」が千年以上にもわたって語り継がれている理由を考え、筋道の通った文章にまとめる。（3段落構成、接続語を用いる。）

内容 ・ストーリーや人物設定、心情描写などに着目し、「竹取物語」の魅力を整理する。
 ・班で交流する。
 ・「考え」「根拠・理由」「まとめ」の3段落で書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容（単元名）		つまずきの実態
第3学年	慣用句・ことわざ・故事成語	論理の展開を工夫して、筋道の通った文章を書くことができない。
第2学年	論理をとらえて	筆者の主張に対し、根拠を明らかにして反論する（否定的な）文章を書くことができない。
第1学年	いにしえの心にふれる	根拠や理由を明らかにして、筋道の通った文章を書くことができない。

単元末の目指す姿

- ①考え、②根拠・理由、③まとめの順で、筋道の通った文章を書くことができる。
- 考えと根拠を羅列するのではなく、接続語を効果的に用いて書くことができる。
- 根拠の提示の仕方によって説得力に違いが生じることを理解して書くことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

★深い学びにつながる実践

作品の面白さや魅力について自分なりの考えをもたせ、その後、班で交流させる。

活動のねらい▶ 多様な考え方があることを知り、自分の考えを伝えようという意欲が高まる。

ここがポイント

根拠となる出来事や文、言動などを教科書だけでなく関連資料（図書室の本、インターネット、絵本、資料集等）からも探させる。これにより教材への関心が高まり、多様な視点から教材を鑑賞することができる。また、調べたことや考えたことを文章にまとめて友達に伝えようという意欲につながる。

資料を根拠にした考えの交流



「ありえへん！」っていう出来事が次々に起こるのが面白いね。

かぐや姫の感情も豊かでいいね。

(期待される生徒の姿)

- 考えの裏付けとなる根拠について話し合わせることで、多様な考え方にふれることができる。また、教科書以外から根拠を探し出すことにより、考えに具体性や客観性が増し、説得力のある文章を書くことにつながる。
- 複数の資料を用いて、比較したり関連付けたりしながら、論を説明するために必要なことを考えることができ、深い学びにつながる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

- 「はじめ」（考え）→ 「中」（根拠・理由）→ 「終わり」（まとめ）の3段落で書くよう指示する。
- 段落のはじめに、接続語を用いるよう助言する。

活動のねらい▶ 段落のまとめりやつながりを意識して、論理的な文章を書く。

ここがポイント

根拠・理由を複数挙げさせ、どの順で用いると良いか検討することにより、論理的な文章展開や接続語を意識できるようになる。また、「3段落構成で」と構成を指示することにより、段落ごとのまとめりや内容が明確になり、すっきりとしたわかりやすい文章になる。

生徒作文

*「竹取物語」の魅力を考えよう！

「竹取物語」が千年もの間語り継がれてきた理由は、空想と現実がほどよく合わさった物語だからだと思います。

例えば、現実的な点でいうと、かぐや姫に言い寄る5人の貴公子は実在する人物をモデルにしていて、その人達の言動も人間らしく描かれています。また、非現実的なところは、竹の中に三寸ほどの子どもがいたり、月から天人が迎えに来たりするところです。

このような理由から、これから先も「竹取物語」は語り継がれていくと思います。